第2回公共交通における事故による被害者等への支援のあり方検討会　議事概要

１．日時

平成 21 年 10 月９日（金）　10：00～12：00

２．場所

合同庁舎２号館低層棟１階共用会議室３Ｂ

３．出席者

冨田座長、垣本委員、高木委員、中島委員、大久保委員、下村委員、美谷島委員、関口委員、小滝委員、最勝寺委員、堀家委員、中桐委員、嘉村委員、蝦名委員、渡邊委員、篠原委員代理松浦氏、菅井委員、粟津委員、髙木委員、福田委員代理山之内氏

４．議題

⑴過去の事故事例における支援の状況について

⑵委員からみた支援のあり方等について（意見交換）

⑶支援ニーズ調査の実施方法について

⑷その他

５．概要

○冨田座長から、被害者等のニーズに即した支援とするため、ニーズ調査のあり方について、委員の積極的な御意見、御提案をお願いしたい旨、挨拶があった。

⑴過去の事故事例における支援の状況について

○事務局から、過去の４つの事故（JR 西日本福知山線列車脱線事故、信楽高原鉄道衝突事故、日本航空 123 便墜落事故、中華航空機 140 便墜落事故）における支援の状況について説明があった。

⑵委員からみた支援のあり方等について（意見交換）

○委員から以下の意見があった。

・事故発生時の情報提供を行う連絡体制の確立、事故調査と捜査の進捗状況の説明などの情報提供が必要ではないか。

・遺体確認、葬儀、事故現場の訪問等の際のサポートなどの直接支援が必要ではないか。

・心のケアを行う機関を身近なところに設立し、被害者等にその機関を案内することが必要ではないか。

・自助グループへの支援のためにマニュアルが必要ではないか。

・被害者を守るために、取材規制などのマスコミ対策が必要ではないか。

・事故がその後の事故防止にどのように活かされたかなどについて、事業者から継続的に情報提供することが必要ではないか。

・遺品や残存機体を保存・展示し、事故を語り継いでいくことが必要ではないか。

・原因究明がなければ被害者等の支援にならないし、原因が分かれば立ち直りが早い。運輸安全

委員会の調査は遺族のためという姿勢が必要ではないか。

・事故直後に何があったらよかったかを被害者等に聞いたところ、事故の情報を１カ所に集めるシステムがあるとよい、病院等における個人情報の扱いを検討してはどうか、被害者家族のいる待機所でのコーディネーターをおいてほしい、待機所での対応マニュアル、情報提供、飲食物の提供等が必要ではないか、遺体確認時の警察や事業者の配慮など被害者等と接する人の心構えが心のケアにつながるという意識が必要ではないか、マスコミによって二次被害が起きないようにしてほしい、という要望があった。

・情報提供と心のケアには共通するものがあり、適切な情報提供は専門的な心のケアを行う前提として必須の土台である。

・いつ、どこで、誰が、被害者等のために情報を提供するのかについて、事前にある程度決めておく必要があるのではないか。

・被害者家族のいる待機所で、心のケアを心得た人が、ニーズを聞いたり、必要なものを提供していくことが必要ではないか。

・遺体確認は非常に衝撃的で、それによる PTSD 発症の可能性があるので、遺体の確認をどのように行うかについて、指針のようなものを示していければよいのではないか。

・被害者等の地元が事故現場から遠い場合の相談・対応についても検討した方がよいのではないか。

・遺体確認の際の配慮、現場での情報提供、待機所での対応について、アメリカの例が参考になるのではないか。

・防災、犯罪の分野では外国語による被害者向けの手引きがある。外国人の被害者への支援についても検討した方がよいのではないか。

⑶支援ニーズ調査の実施方法について

○事務局から、支援ニーズ調査の実施方法について、過去の４つの事故（JR 西日本福知山線列車脱線事故、信楽高原鉄道衝突事故、日本航空 123 便墜落事故、中華航空 140 便墜落事故）の被害者・遺族等を対象に、被害者等団体の協力を得ながら、グループインタビューを中心にヒアリングを行い、ニーズの全体像が見えてきてからアンケート調査を考えたい旨、説明があった。

○委員から以下の意見があった。

・被害者等団体に入っていない方の意見も聞いた方がよいのではないか。

・被害者等へのヒアリングの場には、医学面、心理面でフォローできる人がいた方がよい。

・事故後に起きる症状の特徴や、そのような症状が起きるのは当たり前であるということを、被害者等に伝えることが大切ではないか。

・事故当時の警察、消防、自治体の担当者や交通事業者の意見も聞いた方がよいのではないか。

・ヒアリングの後にフラッシュバックを起こすことがあるので、その場合の相談先を紹介するなどサポート体制を整えてほしい。

・グループインタビューの中で多くの人の意見を効率的に吸い上げるには、焦点を定めて意見を聞く部分とそれ以外に広く聞く部分とに分け、話しやすいように配慮した方がよい。

以上